

令和3年度  
福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の  
点検・評価報告書

令和4年9月

福井県教育委員会

# — 目 次 —

I	はじめに	1
II	点検・評価について	2
III	組織および決算	
1	組織	3
2	課別決算額調	4
IV	令和3年度福井県教育委員会の活動状況	
1	教育委員会の会議開催等の状況	5
2	教育委員の活動状況	9
3	審議会等審議状況	11
4	教育委員会関係の許認可の状況	11
5	令和4年度県立学校入学者選抜学力検査結果の状況（令和3年度実施）	13
6	令和4年度公立学校教員採用選考試験の実施状況（令和3年度実施）	15
V	令和3年度の教育関係施策の取組実績	
1	教育振興基本計画（令和2年3月策定）に基づく施策の実施結果	18
2	主要事業の実施成果	21
VI	有識者からの意見	34

## I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(以下「地教行法」という。)に基づき、平成20年度から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理および執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しています。

[ 参 考 ]

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(抜粋)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

本報告書「令和3年度 福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書」(以下「点検・評価報告書」という。)は、地教行法の規定に基づき、より効果的な教育行政の推進と県民の皆様に対する説明責任を果たすため、福井県教育振興基本計画に掲げた施策の実施結果を示すとともに、教育委員会の各種活動状況について点検・評価した結果を取りまとめたものです。

有識者の方に内容のご確認をいただき、その意見を併せて掲載しています。

本報告書により県民の皆様から、県の教育行政についてのご意見やご要望をいただき、今後の新たな教育関連施策に活かしていきたいと考えています。

## Ⅱ 点検・評価について

### 1 対象期間

令和3年度（令和3年4月～令和4年3月）

### 2 点検・評価方法

#### (1) 点検・評価報告書の作成

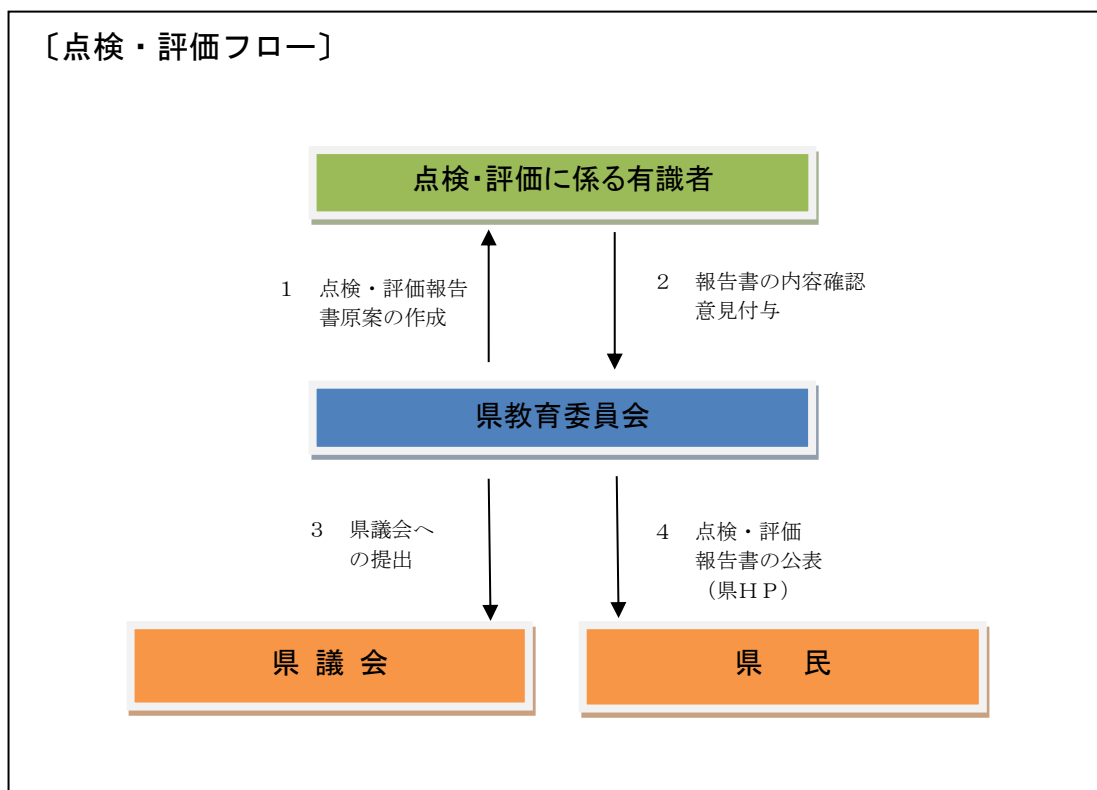
教育委員会において点検・評価報告書案を作成

#### (2) 点検・評価報告書の確認、意見付与

有識者による点検・評価報告書案の内容の確認および意見付与

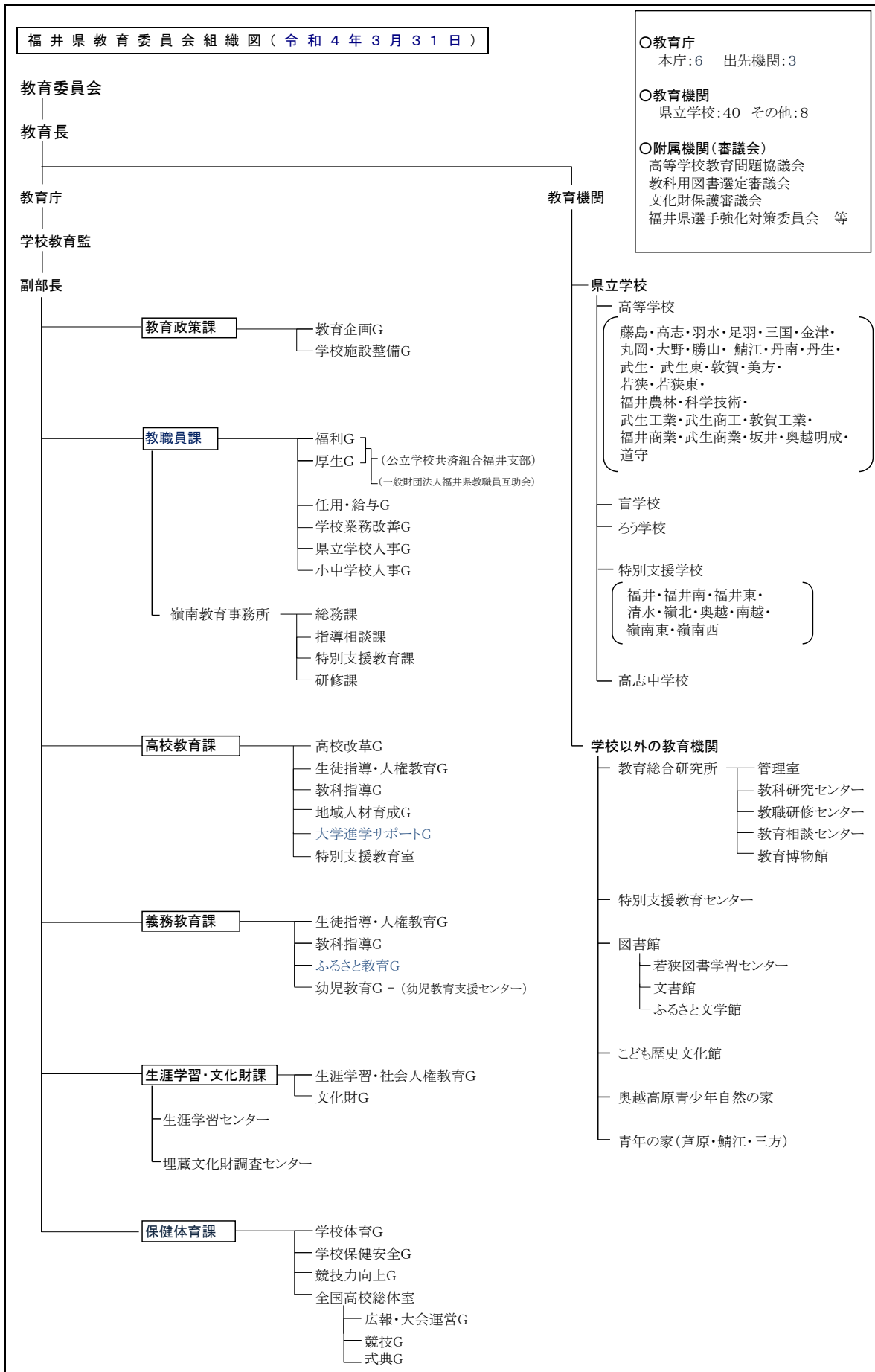
#### (3) 点検・評価結果の公表

点検・評価報告書を県議会に提出するとともに、県のホームページにおいて公表



### Ⅲ 組織および決算

#### 1 組織



## 2 課別決算額調

(一般会計)

(1) 歳入

(単位：千円、%)

課名等	予算現額A	調定額B	収入済額C	(不納欠損額) 収入未済額	C/A	C/B
教育政策課	1,109,994	877,070	877,070	0	79.0	100.0
教職員課	15,046,918	15,044,684	15,044,608	76	99.9	99.9
高校教育課	220,246	209,119	188,121	20,998	85.4	90.0
義務教育課	96,294	49,571	49,571	0	51.5	100.0
生涯学習・文化財課	61,482	59,338	59,338	0	96.5	100.0
保健体育課	93,432	104,710	104,710	0	112.1	100.0
計	16,628,366	16,344,492	16,323,418	21,074	98.2	99.9

(2) 歳出

(単位：千円、%)

課名等	予算現額A	支出済額B	翌年度繰越額C	不用額	B/A
教育政策課	8,577,219	8,154,350	181,811	241,058	95.1
教職員課	67,867,739	67,514,818	0	352,921	99.5
高校教育課	511,405	422,512	38,204	50,689	82.6
義務教育課	276,682	212,243	30,116	34,323	76.7
生涯学習・文化財課	795,984	763,607	770	31,607	95.9
保健体育課	708,497	682,094	0	26,403	96.3
計	78,737,526	77,749,624	250,901	737,001	98.7

※ 計で四捨五入になるよう端数調整

#### IV 令和3年度福井県教育委員会の活動状況

##### 1 教育委員会の会議開催等の状況

###### (1) 福井県教育委員会委員

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

	氏名	職業
教育長	豊北 欽一	
委員（教育長職務代理者）	南部 隆保	会社役員
委員	原 公樹	僧侶
委員	山本 直子	法人役員
委員	森下 典子	元教員
委員	横井 康孝	会社役員

## (2) 教育委員会会議の開催状況

- ・開催回数 14回
- ・附議事項 48件

### ○第1126回（令和3年4月20日（火））

- ・福井県心身障がい児就学指導委員会委員の委嘱について
- ・福井県教科用図書選定審議会委員の任命について

### ○第1127回（令和3年5月19日（水））

- ・福井県選手強化対策委員会委員の任命について

### ○第1128回（令和3年6月11日（金））

- ・令和3年度福井県立高等学校後期編入学者選抜実施要項（定時制の課程および通信制の課程）の制定について
- ・令和4年度使用義務教育諸学校教科用図書採択についての基準、選定資料および採択目録の決定について
- ・福井県スポーツ推進審議会委員の任命について

### ○第1129回（令和3年7月20日（火））

- ・令和4年度福井県立高志中学校入学者選抜に関する実施要項の制定について

### ○第1130回（令和3年9月1日（水））

- ・令和4年度福井県立高等学校入学者選抜における推薦入学者選抜の実施校について
- ・令和4年度福井県立高等学校入学者選抜における特色選抜の実施校および実施種目・領域について
- ・福井県指定文化財の指定について
- ・福井県立学校設置条例の一部改正について
- ・令和4年度使用県立高等学校、県立特別支援学校高等部および県立中学校の教科用図書の採択について
- ・令和2年度教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書について

### ○第1131回（令和3年9月24日（金））

- ・令和3年度教育功労者表彰の被表彰者の決定について
- ・令和4年度福井県公立学校教員採用選考試験採用内定者の決定について



○第1132回（令和3年10月26日（火））

- ・福井県教育委員会行政組織規則および福井県立学校の管理運営に関する規則の一部改正について
- ・令和4年度福井県立学校入学者募集定員について
- ・令和4年度福井県立高等学校入学者選抜実施要項ならびに令和4年度福井県立特別支援学校の幼稚部および高等部の入学者選考実施要項の制定について
- ・教職員の懲戒処分について

○第1133回（令和3年11月18日（木））

- ・福井県立高等学校等授業料等徴収条例の一部改正について
- ・福井県教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部改正について
- ・令和4年度教職員人事異動方針について
- ・令和4年度福井県公立学校校長・教頭任用選考試験の合格者の決定について

○第1134回（令和3年12月23日（木））

- ・教育職員免許に関する規則の一部改正について
- ・令和4年度福井県立学校寄宿舎指導員・実習助手採用試験の採用内定者の決定について
- ・福井県朝倉氏遺跡研究協議会委員の委嘱について
- ・令和3年度福井県学校保健・学校安全・学校給食表彰被表彰者の決定について
- ・教職員の懲戒処分について

○第1135回（令和4年1月20日（木））

- ・令和4年度福井県公立学校再任用教職員採用内定者の決定について
- ・令和3年度ふくい優秀教職員表彰の被表彰者の決定について
- ・南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞受賞者の決定について
- ・福井県立美術館運営協議会委員の任命について

○第1136回（令和4年2月3日（木））

- ・福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館の設置および管理に関する条例等の一部改正について
- ・福井県立学校職員定数条例の一部改正について
- ・市町立学校県費負担教職員定数条例の一部改正について
- ・損害賠償額の決定および和解について
- ・教職員の懲戒処分について
- ・福井県教育委員会の職務権限に属する事務の管理および執行の特例に関する条例の制定に伴う意見聴取について

○第1137回（令和4年3月4日（金））

- ・福井県立恐竜博物館の管理運営に関する規則の一部改正について
- ・令和4年度公立小中学校校長・教頭および県立学校校長・教頭の人事異動について

○第1138回（令和4年3月17日（木））

- ・授業名人の任命について
- ・福井県文化財保護審議会委員の任命について
- ・福井県銃砲刀剣類登録審査委員の任命について
- ・いじめ調査専門委員会委員の委嘱について
- ・懲戒処分の指針の一部改正について
- ・令和4年4月1日付け教育庁および学校以外の教育機関の管理職の人事異動について
- ・令和4年4月1日付け機構改革に伴う福井県教育委員会行政組織規則等の一部改正について

○第1139回（令和4年3月31日（木））

- ・附議事項なし

## 2 教育委員の活動状況

時 期	活 動 内 容 (参加行事等)
令和3年 4月20日	第1126回教育委員会
5月19日	第1127回教育委員会
6月11日	第1128回教育委員会
6月23日	学校訪問 (美方高校)
6月29日	学校訪問 (高浜中学校)
6月30日	学校訪問 (勝山高校)
7月 1日	学校訪問 (越前中学校)
7月12日	学校訪問 (鹿谷小学校)
7月14日	学校訪問 (三国北小学校)
7月15日	全国都道府県教育委員会連合会第1回総会
7月20日	第1129回教育委員会
7月31日 8月 1日	小学生のプレゼン力向上セミナー
8月 3日、4日、 5日	教員採用試験面接
8月13日	全国高等学校総合体育大会 総合開会式
9月 1日	第1130回教育委員会
9月24日	第1131回教育委員会
10月11日	学校訪問 (福井南特別支援学校)
10月14日	学校訪問 (角鹿小中学校)
10月15日	鳥浜貝塚発見60周年記念特別展開会式
10月25日、26日、 28日	管理職任用選考試験面接
10月26日	第1132回教育委員会
11月 5日	教育功労者表彰式
11月12日	学校訪問 (金津高校)
11月16日	学校訪問 (開成中学校)
11月17日	総合教育会議
11月18日	第1133回教育委員会
11月19日	学校訪問 (武生東高校)
11月20日	福井県中学生ビブリオバトル
11月24日	学校訪問 (科学技術高校)
12月 3日	オーケストラと子どもたちのふれあいコンサート
12月23日	第1134回教育委員会

令和4年 1月20日	第1135回教育委員会
1月31日	全国都道府県教育委員会連合会第2回総会
2月 3日	第1136回教育委員会
3月 4日	第1137回教育委員会
3月 5日	丹南高等学校卒業証書授与式および閉校式
3月17日	第1138回教育委員会
3月31日	永年勤続退職教職員辞令交付式・表彰式 第1139回教育委員会

### 3 審議会等審議状況

名 称	委員数	会議開催数	件 名	種 別	年月日
福井県心身障がい児就学指導委員会	20	3	県立特別支援学校の該当児判断について	審議	3. 6.11 3. 10.15 3. 12.15
福井県教科用図書選定審議会	15	2	義務教育諸学校で使用する教科用図書について	審議・答申	3. 5.13 3. 6.3
福井県文化財保護審議会	15	2	福井県指定文化財の指定について	審議・答申・協議・報告	3. 8.10 4. 3.22
福井県選手強化対策委員会	15	1	今後の中学生の選手育成・強化 地域と学校が連携した選手育成・強化	審議	3.11.29

### 4 教育委員会関係の許認可の状況

#### (1) 教育職員免許状の授与等（令和3年度）

区分	専修免許状	1種免許状	2種免許状	特別免許状	臨時免許状	合 計
小学校	27	127	13	0	37	204
中学校	41	111	2	1	16	171
高等学校	52	186	0	1	62	301
特別支援学校	0	20	54	0	16	90
幼稚園	1	85	129	0	6	221
養護教員	0	21	3	0	11	35
栄養教員	0	12	0	0	0	12
自立教科等	0	0	0	0	0	0
合 計	121	562	201	2	148	1034

(2) 文化財の指定状況

令和3年度においては、新たに、国指定文化財に1件（追加指定、件数変更なし）  
国選定文化財に1件選定、国登録文化財に1件登録、県指定文化財に9件指定され  
ました。

<指定文化財の現状>

令和4年3月31日現在

(件)

区 分	国指定		国選定	国選択	国登録	県指定	
	国 宝 特 別	重 文 国指定					
有 形 文化財	建造物	2	28			227	28
	絵 画		14				81
	彫 刻		35				84
	工芸品	3	8			1	33
	書跡・典籍・古文書	1	15				21
	考古資料		5				16
	歴史資料		3				8
	計	6	108			228	271
無 形 文化財	芸 能						
	工芸技術		2				4
	計		2				4
民 俗 文化財	有形民俗文化財		1			1	10
	無形民俗文化財		5		12		65
	計		6		12	1	75
史跡・名勝・ 天然記念物	史 跡	1	24				29
	名 勝	1	14			2	7
	天然記念物	4	17			1	31
	名勝天然記念物		1				
	計	6	56			3	67
文化的景観				3			
重要伝統的建造物群保存地区				3			
選定保存技術							
合 計		12	172	6	12	232	417
		184					

(3) 銃砲刀剣類の登録状況

銃砲刀剣類所持等取締法に基づき、審査会を開催し、登録証の交付等をおこなってまいりました。

登録証交付 47 件  
 登録証再交付 11 件  
 所有者変更 221 件

(4) 教育委員会所管の公益法人

23 法人 (令和4年3月31日現在)

(公益財団法人12 公益社団法人2 一般財団法人8 一般社団法人1)

5 令和4年度県立学校入学者選抜学力検査結果の状況 (令和3年度実施)

(1) 県立高等学校

課程別の合格者数は、表1のとおりです。また、全日制の第1次学力検査合格者3,460人のうち、帰国子女受験者と追検査受験者を除く3,450人(前年度3,531人)に関する教科別の平均点は、表2のとおりです。

表1 課程別の合格者数

※ ( ) 内は前年度実績

	全 日 制	定 時 制	合 計
推薦選抜によるもの	577(509)		577 (509)
特色選抜によるもの	349(303)		349 (303)
連携型中高一貫教育校入学者選抜によるもの	74(94)		74(94)
第1次学力検査によるもの	3,460(3,533)	176(154)	3,636(3,687)
第2次学力検査によるもの	32(29)	29(22)	61(51)
外国人等特別選抜によるもの	9(10)		9(10)
特別検査によるもの	8(—)	1(—)	9(—)
計	4,509(4,478)	206(176)	4,715(4,654)
充足率	95.1%(95.1%)	58.9%(50.3%)	92.6%(92.0%)

<参考>

募集定員	4,741(4,707)	350(350)	5,091(5,057)
------	--------------	----------	--------------

表 2 教科別の平均点

	選択問題 A	選択問題 B
英 語	39.9( 42.4)	56.3( 56.4)
数 学	40.5( 49.2)	55.5( 49.2)
	共通	
国 語	59.6( 61.2)	
社 会	54.2( 56.6)	
理 科	50.7( 52.5)	
総 点	190.2(208.0)	303.6 (303.0)

※英語および数学は大問 4～6 のうち 1～2 問を次の 2 種類の選択問題として実施  
 A：基礎力を問う設問の割合が多い問題（選択した合格者 1,127 人）  
 B：記述・論述型の設問の割合が多い問題（選択した合格者 2,323 人）

(2) 県立中学校

平成 27 年度に開学した高志中学校の入学者選抜の受験の状況は、表 3 のとおりです。また、適性検査等の結果は表 4 のとおりです。

表 3 受験の状況

募集定員	出願者数	受験者数	合格者数
90	332	316	90

表 4 適性検査等の結果

	配 点	平均点
適性検査 I	100	43.3
適性検査 II	100	37.9
適性検査 III	100	43.1
面 接	50	39.9
合 計	350	164.2



## 6 令和4年度公立学校教員採用選考試験の実施状況（令和3年度実施）

### 第1次選考

#### 試験期日および場所

期 日 等	場 所
令和3年7月3日（土） 一般・教職、教科等専門（小学校、中学技術、高校各科、養護教諭、栄養教諭）	福井県立藤島高等学校 （福井市文京2丁目8-30）
令和3年7月4日（日） 教科等専門（中高一括、特別支援学校）	福井市春山小学校【中高音楽実技】 （福井市文京3丁目13-1）

### 第2次選考 および 特別選考

#### 試験期日および場所

期 日 等	場 所
令和3年8月2日（月） 【第2次選考】適性検査、小論文 【特別選考】 令和4年度大学院特別選考 適性検査、個人面接 教育エキスパート特別選考 個人面接等 盲学校保健医療科担当教員特別選考 教科等専門、個人面接	福井県立藤島高等学校 （福井市文京2丁目8-30）
令和3年8月3日（火）～6日（金） 【第2次選考】個人面接	

#### 《 教員採用試験の改善について 》

優秀な人材の確保および選考過程の透明性・公平性を図るため、次のような改善を行いました。

#### ○ 優秀な人材の確保

＜平成18年度から実施＞

- ・受験資格を60歳未満に拡大
- ・講師経験者の1次選考免除を導入

＜平成19年度から実施＞

- ・2次選考において、場面指導を導入
- ・国際貢献活動経験者の1次選考免除を導入

＜平成20年度から実施＞

- ・大学院修士課程修了時の特別選考を導入

<平成21年度から実施>

- ・面接の重視（配点割合の引き上げ）
- ・「音楽」「美術」を含む全教科での筆記試験の実施

<平成23年度から実施>

- ・スポーツ特別選考の実施

<平成25年度から実施>

- ・従来の一括募集を校種・教科別の募集に変更
- ・2つの校種・教科を併願できるように変更
- ・校種・教科の専門試験を1次選考で実施（全ての受験者が専門試験を受験）
- ・2次選考の「場面指導」を「集団討論」に変更
- ・面接の重視（配点割合の引き上げ）

<平成27年度から実施>

- ・特別選考の導入①スポーツ・芸術特別選考  
②教育エキスパート特別選考  
③グローバル教育特別選考

<平成28年度から実施>

- ・特別選考の見直し①スポーツ・芸術特別選考  
②教育エキスパート特別選考  
    専門教育分野  
    英語教育分野

<令和元年度から実施>

- ・障がい者特別選考の受験資格拡大
- ・介護を理由に退職した教員の再採用を実施

<令和2年度から実施>

- ・第1次選考全部免除制度を導入  
（他都道府県国公立学校正規勤務経験者または県内国公立学校勤務講師対象）
- ・第1次選考の一般教養と教職専門の筆記試験を一般・教職に一本化
- ・第2次選考の「集団討論」を廃し「個人面接」を2回に変更

<令和3年度から実施>

- ・スポーツ・芸術特別選考を教育エキスパート特別選考に移行

○ 受験者に対する情報の提供

<平成20年度から実施>

- ・2次選考の不合格者に対して、成績をA、B、Cの三段階で通知
- ・試験問題の持ち帰りと、解答例・配点の公表（自己採点可能）の実施
- ・個人情報開示請求に基づき、以下の情報を開示  
    1次選考および2次選考における筆記試験、実技試験、作文および面接の  
    点数
- ・筆記試験、実技試験、作文および面接の配点ならびに評価項目など選考基準をホームページで公開

- ・ 1次選考合格者および最終合格者について、合否結果通知の発送に併せて、ホームページでも受験番号を公表

<平成21年度から実施>

- ・ 判定基準をホームページで事前発表
- ・ 解答例および設問別配点をホームページに掲載（自己採点可能）
- ・ 不合格者のうち希望者に、筆記試験、実技試験、作文および面接の各点数ならびに合計点数を通知

<平成26年度から実施>

- ・ 不合格者全員に筆記試験、実技試験、作文および面接の各点数ならびに合計点数を通知

○ 選考過程等の改善

<平成20年度から実施>

- ・ 改ざん等の不正防止のため、担当部署以外の行政職員による答案や面接時の個票と選考資料との突き合わせ点検を実施
- ・ 民間有識者による選考手順や選考内容の点検および抽出データによる答案等の元データと選考資料データの突合を実施

<平成21年度から実施>

- ・ 実技試験において、受験番号にかわり整理番号を使用

<平成24年度から実施>

- ・ 電子申請による受付を導入

<平成26年度から実施>

- ・ 一般教養試験において、マークシート方式を導入

<平成27年度から実施>

- ・ 小学校筆記試験において、外国語のリスニングテストを導入
- ・ 一般教養に加え、教職専門の試験において、マークシート方式を導入

<令和2年度から実施>

- ・ 小学校の試験において、外国語リスニングおよび実技試験を廃止
- ・ 外国語資格における加点対象を拡大

## V 令和3年度の教育関係施策の取組実績

### 1 教育振興基本計画（令和2年3月策定）に基づく施策の実施結果

#### 方針1：学ぶ喜びを知り、自ら進んで学ぶ意欲と力の育成

- ・タブレット端末を効果的に活用するため、すべての県立高等学校、高志中学校に授業支援アプリであるロイロノートを導入し、高志中学校ではデジタル教科書活用のための公開授業を2回実施 [教育政策課、高校教育課]
- ・「引き出す教育・楽しむ教育」を推進するため、各小中学校が重点的に取り組むテーマを設定し実践するとともに、生徒による「子どもミーティング」を開催 [義務教育課]
- ・足羽、丸岡、武生東、勝山、羽水の各高校で新学科を設置し、令和4年度入学者選抜より募集を開始 [高校教育課]
- ・若狭高校と丸岡高校における地域みらい留学<sup>\*</sup>の令和4年度の全国募集開始および令和5年度の県外生徒受入れに向けて小浜市、坂井市と協議を実施するとともに、若狭高校寮の設計業務を完了 [高校教育課、教育政策課]  
※部活動に限らず、全国募集を行って県外の生徒が高校1年生から3年生までの3年間を地域で学ぶ国内留学のこと
- ・高志中学校の第1期生が高校を卒業したことから、県中高一貫教育検証委員会を開催し、8月に報告書を取りまとめ [高校教育課]
- ・新型コロナウイルスの感染拡大に備え、複数の受験機会を確保して受験生の安心につながるため、県立高等学校一般入学者選抜を2月16日、17日に実施するとともに、大雪を避け、安心して受験できる機会を設けるため、高志中学校入学者選抜を12月18日、19日に実施 [高校教育課]

#### 方針2：適性や興味関心に応じた文化芸術、スポーツ活動の促進

- ・運動能力が高くトップアスリートを目指す6年生45名を対象に「ふくいジュニアアスリートアカデミー」を開催し、五輪選手とのディスカッションや12競技の本格的な体験など、アスリート育成プログラムを提供 [保健体育課]

#### 方針3：豊かな心、健やかな体の育成

- ・部活動の段階的な地域移行に向けて国委託事業を受け、運動部で1市1町（鯖江市、美浜町）、文化部で1市（敦賀市）において実践研究を実施 [保健体育課、義務教育課]
- ・本県を中心とした北信越で令和3年度全国高等学校総合体育大会を開催し、本県では、7月28日～8月24日の期間において全国から選手監督等15,767人、広報PRや総合開会式の歓迎演技、会場での運営補助などで県内高校生4,155人が参加 [保健体育課]

#### 方針4：国際的な視野に立ち、自らの考えを発信する力の育成

- ・職業系高校における「話せる英語」の教育について、「福井県ふるさとツーリズム英会話検定」を実施し、1級～4級のうち82名が3級に、2,617名が4級に合格  
〔高校教育課〕
- ・6月から8月にかけて「全国高校生プレゼン甲子園」を開催し、409チーム（県内288、県外121）、85校（県内26、県外59）が参加  
〔高校教育課〕

#### 方針5：特性や心情に配慮し、誰もが安心して学べる教育環境の整備

- ・ろう学校教員による嶺南地区でのサテライト教室の実施回数を月2回から3回に増やし、対象の児童生徒の教育的ニーズに合わせた相談や指導を充実  
〔高校教育課〕

#### 方針6：ふるさとを愛する心と社会に貢献する志の育成

- ・若狭高校の新造実習船「雲龍丸」の体験航海を実施し、小中学校21校から計651名（嶺北142名、嶺南509名）、一般県民159名が参加  
〔教育政策課〕
- ・「ふるさと福井CMコンテスト」を開催し、小中高校79校から248作品の応募  
〔義務教育課、高校教育課〕
- ・「ふるさと福井の魅力プレゼンテーション大会」を開催し、小学校6校から33チーム115名が参加  
〔義務教育課〕
- ・職業系高校において、地域の産業や企業について学ぶ本県独自の共通科目「ふくいので産業」を開設し、計15回のオンライン講座を実施  
〔高校教育課〕
- ・産業界と県立高校が一体となり、宇宙食サバ缶の市販化（若狭高校）やお菓子セットのオンライン販売（坂井高校）、民間人教頭の招聘等を実施  
〔高校教育課〕

#### 方針7：生涯にわたる学びの支援

- ・社会教育関係団体が地域の拠点である公民館等と連携し実施する、SDGsの理念に沿った12活動を支援し、計792名が参加  
〔生涯学習・文化財課〕

## 方針 8 : 新たな時代を見据えた教育環境の整備

- ・小中学校における授業改善や業務改善を図るため、9月に「市町教委との教育DX推進会議」を設置し、WEB会議を計4回開催 [教育政策課]
- ・令和3年度の月80時間以上の超過勤務者は、昨年度と比べて73.0%減少し、全教職員に占める割合は昨年度4.4%から1.2%（R3.4月～R4.3月）に減少 [教職員課]
- ・県立高等学校一般入学者選抜において、WEB出願システムによる出願を開始し、合格発表についても同システムにより実施 [高校教育課]
- ・ふくい教員の魅力を発信する動画を福井県教育庁チャンネル（YouTube）に3本掲載し、令和4年3月末現在で合計4,410回再生 [教職員課]

## 2 主要事業の実施成果

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(1) 次世代につなぐ美しい県立学校施設整備事業				教育政策課
[事業目的]	県立学校の長寿命化を進め、時代に即した学習環境を備える学校を整備するため、計画的にリノベーション工事等を実施する。			
[事業内容]	建築後 35 年以上経過した県立学校施設を対象に、外壁や内装、各種設備など施設全体を改修			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	1, 880, 864	61, 982	1, 635, 284	183, 598
[事業の目標および効果]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校 6 件、特別支援学校 1 件の大規模改修工事を実施した。</li> <li>・高等学校 3 件、特別支援学校 1 件の設計を実施した。</li> <li>・7 校 148 教室の空調設備更新工事を実施した。</li> <li>・12 校 114 箇所のトイレ洋式化工事を実施した。</li> </ul>			
[事業評価]	学校施設の大規模改修工事を実施し、屋上防水や外壁改修など長寿命化を進めた。また、断熱性の確保により省エネ化を図る改修など、時代に即した学習環境を整備するとともに、空調設備更新工事やトイレ洋式化工事を実施した。			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(2) 県立学校タブレット活用促進事業				教育政策課
[事業目的]	2 年度末に整備した 1 人 1 台タブレット端末を効果的に活用するための環境を整備する。			
[事業内容]	授業支援のためのデジタル教材の導入や、学校現場でタブレット端末が円滑に活用されるよう教員への支援を実施			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	22, 885	22, 885		
[事業の目標および効果]		内 容	目 標	実 績
	活動指標	ICT 支援員訪問校数	39 校	39 校
	成果指標	授業の内容がよくわかると答えた生徒の割合	37%	25%
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末が学習活動で効果的かつ円滑に活用され、生徒同士が意見を出し合い協働的に学ぶよう、授業支援アプリやデジタル教科書を導入した。また、ICT 支援員 2 名を県立学校に配置し、必要な支援を行った。</li> <li>・タブレット端末導入初年度であり、今後、授業における ICT の効果的な活用を推進するとともに、研修等により教員の授業力を向上させていく。</li> </ul>			





I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(5) ⑧地域の普通科系高校魅力向上支援事業				高校教育課	
[事業目的]	生徒主体の教育活動など学校改革に取り組み、生徒から選ばれる県立高校づくりを推進する。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学科・コースの設置等に向け、特色あるカリキュラムの実施を検討</li> <li>・新学科の教育活動に必要な設備を整備</li> </ul>				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
	7,522				7,522
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	支援対象校	4校	4校	
	成果 指標	地区内県立高校への進学 志望率	70.0%	67.1%	R2 62.9%
[事業評価]	令和4年4月より普通科系高校6校に、探究やスポーツ分野の強化等を図る特色ある学科・コースを新設したところ、昨年度よりも成果指標が向上した。探究コーディネーターの配置、探究ルームや機器の整備等を進めており、高校の魅力向上が図られている。				

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(6) 生徒の進学希望実現支援事業				高校教育課	
[事業目的]	生徒の特性・興味・関心にあった進路選択を行えるよう各学年段階において支援を行うほか、生徒の進学希望を実現するために、高校における進学指導体制や生徒への受験対策を強化する。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学進学者の多い県立高校を対象に、大学進学希望者に対する受験対策を支援</li> <li>・1年生のための大学進学セミナーの実施</li> </ul>				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
	5,770				5,770
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	大学進学セミ ナー参加者数	700人	418人	セミナー動画再生回数 1,142回
	成果 指標	国公立大学合 格者率	24.0%	25.8%	
[事業評価]	大学進学セミナーの実参加者数はコロナ禍により目標を下回ったが、開催後に公開したセミナー動画の再生回数を含めると目標を達成しており、多くの生徒の進路志望実現支援が図られた。				

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(7) 英語力向上事業			高校教育課	
[事業目的]	国際社会で求められる英語力について、生徒が自身の英語力を把握するための一助として、外部検定試験やオンライン英会話等を活用し、英語学習に対する意欲向上を図る。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外の大学生とのオンライン英会話を実施</li> <li>・民間事業者による外部検定試験の受験料を支援</li> <li>・福井県英語ディベート大会を開催</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	17,342		2,551	14,791
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	外部検定受験率	53.6%	54.0%
	成果 指標	高校卒業時に求められる英語力達成率	60%	59.6%
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により在学中に外部検定を受験できなかった生徒がいるため、成果指標は目標に届かなかった。</li> <li>・タブレットを活用したオンライン英会話や英語ディベート大会の実施により、生徒の英語学習に対する意欲向上や英語力の向上を促進した。</li> </ul>			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(8) 総合型WEB出願システム構築事業			高校教育課	
[事業目的]	県立高校入試にかかる出願手続きと合格発表をオンライン化し、業務の効率化と利便性向上を図るとともに、対面での出願手続きや合格発表時の密集状態の回避により、感染症拡大防止に資する。			
[事業内容]	・出願から受験票発行、合格発表をオンライン上で行う総合型WEB出願システムを構築・運用			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	29,531	29,531		
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	—	—	—
	成果 指標	—	—	—
[事業評価]	志願者が志願情報を直接入力することで、中学校の事務負担が軽減されただけでなく、高校による受験票交付などの事務負担も軽減された。また、今年度の大雪時等に、志願者や保護者への一斉緊急連絡が行われた。			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(9) ㊦未来の産業教育ブーストアップ事業				高校教育課
[事業目的]	県立高校の職業系学科において、企業や大学と連携した実習や研究により、地域産業を牽引できる人材の育成や、県内外の中学生から選ばれる魅力的な学校づくりを行う。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業・大学と連携した共同研究や商品開発を実施</li> <li>・企業の人材や施設・設備を活用した最先端技術の学習・実習を実施</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	16,043	16,043		
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	企業技術者等による 授業数	50回	97回
	成果 指標	商品化・実用化された 取組み数	—	1件
[事業評価]	企業や大学と連携した共同研究や商品開発の取組みを実施することで、地域産業を牽引できる人材の育成が図られ、学校の魅力を地域に発信している。			

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(10) 福井フューチャーマイスター事業				高校教育課	
[事業目的]	県内職業系高校生の資格取得等に対する意欲向上を図り、地元企業に就職して活躍するためのスキルアップを促進するため、高校生の専門資格取得を支援する。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の資格取得や企業実習等の実績に基づき、認定を行う福井フューチャーマイスター制度を実施</li> <li>・専門資格の取得を支援（補助率2/3【一般資格は1/2】）</li> </ul>				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	8,748	210		8,538	
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	高度技術者による講 座数	80回	78回	コロナ禍による一部講座の中止
	成果 指標	福井フューチャーマ イスター認定率	87.4%	82.3%	コロナ禍による一部検定試験の中止および受検者減
[事業評価]	地元企業の即戦力となる人材を育成するため、職業系高校生の資格取得を支援するとともに、福井フューチャーマイスターとして認定することにより、スキルアップが図られている。				

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(11) 特別支援学校キャリア教育推進事業			高校教育課	
[事業目的]	農業体験など地域との連携・協働により、特別支援学校児童生徒の就労・学習意欲や職業スキルを向上させるなどキャリア教育を推進する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業法人等による技術指導や校外での農業体験実習を実施</li> <li>・生徒が作業学習等で培った力を認定する「特別支援学校技能検定」を実施</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	2,155			2,155
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	農業体験活動参加生徒	120人	178人
	成果 指標	農業体験実習受入企業等数	9社	6社
[事業評価]	農業体験実習や技能検定の実施により、特別支援学校生徒の技能向上や就労の促進が図られている。			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(12) 嶺南地区聴覚障がい教育支援充実事業			高校教育課	
[事業目的]	嶺南地区に聴覚検査室や聴覚障がい教育の拠点を整備することにより、聴覚障がいのある幼児児童生徒やその保護者の支援体制の強化を図る。			
[事業内容]	・聴覚検査室および検査機器の整備			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	3,733			3,733
[事業の目標 および効果]	・嶺南東特別支援学校に聴覚検査室を整備した。			
[事業評価]	聴覚検査室を整備したことにより、ろう学校と同程度の聴力測定が可能になった。個の教育的ニーズに応じた教育相談等も嶺南地区で実施可能になり、嶺南在住の幼児児童生徒や保護者への支援体制強化が図られている。			

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(13) ⑧ふるさとの魅力発信推進事業				義務教育課	
[事業目的]	児童生徒が自らの地域について学習したことを基に課題を見出し、その課題解決や地方創生に向けて他者へ発信する活動を通して、ふるさと福井に誇りや愛着を持ち、地域の魅力を発信できる人材を育成する。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさとCMを作成するための動画編集ソフト等の経費を助成（1校 20万円を上限 県1/2、市町1/2）</li> <li>「ふるさと福井CMコンテスト」の開催</li> </ul>				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	4,952			4,952	
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	地域の観光資源の創出・発信活動の実施校	52校	63校	
	成果 指標	地域や社会をよくするために考える児童生徒の割合	52%	51.5%	コロナ禍によるふるさと教育発信等の機会の減
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさとCM作成に係る経費の助成やCMコンテストの開催により、ふるさと福井に誇りや愛着を持ち地域の魅力を発信できる人材の育成が図られている。</li> <li>今後、受賞作品やCMの作成法を各学校に公開し、他地域にない自らの地域の魅力発見、より魅力的な発信方法の学習機会を提供していく。</li> </ul>				

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(14) 芸術教育推進事業				義務教育課	
[事業目的]	学校教育を通じて、音楽や美術など芸術面における体験活動を充実し、児童生徒の感性や表現力の向上を図る。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校、高校の吹奏楽部に対し演奏家などの派遣や、全国大会に出場するための旅費などを支援</li> <li>小中学校、高校の弦楽奏者に対し、プロ奏者の派遣や合同発表会を開催</li> </ul>				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	7,880		5,857	2,023	
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	吹奏楽講師の派遣回数	110回	68回	
	成果 指標	弦楽奏者数	220人	251人	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>吹奏楽、弦楽の指導者派遣や吹奏楽の全国大会出場校への旅費支援により、芸術教活動の充実が図られている。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により吹奏楽の対面での指導回数が減少したが、今後はリモートでの指導を取り入れる等、講師派遣回数の増加を図っていく。</li> </ul>				

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(15) 外国人児童生徒等支援事業				義務教育課
[事業目的]	日本語指導が必要な児童生徒に対する支援体制を強化し、外国人児童生徒の教育の充実を図る。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人児童生徒等が在籍する小中学校に日本語指導員を配置</li> <li>外国人児童生徒やその保護者との会話に必要な翻訳機などの支援</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	15,364	7,682		7,682
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	連絡協議会の 開催	3 回	3 回
	成果 指標	日本語指導員 の配置人数	10 名	10 名
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語指導員を配置することで、外国人児童生徒への教育の充実を図った。</li> <li>翻訳機の整備により、外国人児童生徒やその保護者への対応の円滑化を図った。</li> <li>4 年度より有識者等による学校訪問や Web 会議システムを活用した相談支援を行う。</li> </ul>			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(16) ふるさと教育フェスタ開催事業				義務教育課
[事業目的]	ふるさと福井に誇りや愛着を持つ人材を育成するため、小中学校で実施するふるさと教育の活動成果や地域の伝統芸能を幅広く県内に発信する「福井ふるさと教育フェスタ」を開催。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学生によるふるさと教育の活動成果のステージ発表</li> <li>伝統芸能団体による伝統文化のステージ発表</li> <li>ふるさと自慢（魅力）プレゼンテーション大会</li> <li>小中学生による物品販売（地域の方と協働で制作したものなど）</li> <li>小中学生のふるさと学習の成果に関するパネル展示、発表</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	695		334	361
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	参加団体数	36 団体	—
	成果 指標	地域や社会をよくするた めに考える児童生徒の割 合	52%	51.5%
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響で「福井ふるさと教育フェスタ」が中止となったが、代わりにステージ発表の動画や展示等を県HPで公開するなどした。</li> <li>今後、「福井ふるさと教育フェスタ」の開催等により、ふるさと教育発信等の機会を提供し、ふるさと福井に誇りや愛着を持つ人材の育成を図っていく。</li> </ul>			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(17) SNS相談事業				義務教育課
[事業目的]	いじめ・不登校の未然防止、早期発見等のため、SNSなどを通じて相談を実施。			
[事業内容]	中学、高校生を対象にSNSによる相談窓口を開設し、臨床心理士などの資格を有した相談員による相談を実施			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	11,634	3,878		7,756
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	相談件数	100件	529件
	成果 指標	1,000人あたりの不 登校児童生徒数	—	14人
[事業評価]	生徒の心のケアを行うため、若年層が相談しやすいSNS等を活用した相談窓口を夏季休業明け前後に加え、10月以降の土日祝日に開設し、相談件数が目標を大幅に上回った。			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(18) スクールカウンセラー配置事業				義務教育課
[事業目的]	心理の専門的な知識を持つスクールカウンセラーを配置し、いじめ、不登校、暴力行為等の問題行動の未然防止や早期発見、早期解決を図る。			
[事業内容]	教育総合研究所および小中学校にスクールカウンセラー93名を配置 児童生徒等へのカウンセリング、教職員・保護者への助言等を実施 事案に対する学校内連携・支援チームの構築・支援			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	129,650	43,217		86,433
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	相談件数	—	39,223件
	成果 指標	1,000人あたりの不 登校児童生徒数	—	14人
[事業評価]	スクールカウンセラーの配置時間の増や研修会の実施により教育相談体制の強化を図った。			

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(19) スクールソーシャルワーカー配置事業			義務教育課		
[事業目的]	社会福祉等の専門的な知識を持つスクールソーシャルワーカーを配置し、家庭環境、不登校、貧困、虐待等の課題を抱える児童生徒の支援、健全育成を図るため、関係機関と連携し、支援を行う。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育総合研究所および嶺南教育事務所、市町に対し、スクールソーシャルワーカー26名を配置</li> <li>・問題を抱える児童生徒に対する家庭訪問を行い、必要に応じて、児童相談所等の福祉関係機関や警察など関係機関と連携し、家庭環境の改善を図る。</li> </ul>				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
	31,230		10,410		20,820
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績	
	活動 指標	相談件数	—	832 件	
	成果 指標	1,000 人あたりの不 登校児童生徒数	—	14 人	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童相談所や警察などの関係機関と連携し、児童生徒を取り巻く環境の問題解決を図った。</li> <li>・今後もスクールソーシャルワーカーの配置時間の増や資質向上研修を行うとともに、関係機関と連携し、家庭環境の改善を図っていく。</li> </ul>				

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(20) 部活動地域移行研究事業			義務教育課		
[事業目的]	5 年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行に向けて、県内のモデル地域において実践研究を実施し、休日の地域部活動の県内展開につなげる。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内モデル校の休日部活動の地域移行を実践研究</li> <li>・県内有識者等に検討委員を委嘱し地域部活動の在り方を検討</li> </ul>				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
	381		381		
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績	
	活動 指標	実践モデル地域数	1 地域	1 地域	
	成果 指標	調査対象者数	100 人	149 人	
[事業評価]	モデル校（4 中学校）の休日部活動について、月 2 回の地域部活動を実施し、地域部活動の課題等の検討を進めた。				



I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(21) 子どもの読書活動推進事業			生涯学習・文化財課	
[事業目的]	子どもが自主的に本に親しみ、みんなで読書を楽しむ環境づくりのために、家庭・地域・学校において子どもの読書活動を推進する。			
[事業内容]	・家庭・地域・学校等における読書活動の推進 推奨図書小冊子の作成、プレパパプレママ絵本講座、 ジュニア司書養成講座、幼稚園教諭・保育士のための絵本講座 等			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	3,912		5	3,907
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	講座等の開催回数	28回	20回
	成果 指標	県立図書館にお ける推奨図書の貸出 冊数	10,000冊	12,491冊
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、講座等の開催を一部自粛したため、目標回数には到達しなかった。</li> <li>・推奨図書小冊子の作成等により、県立図書館における推奨図書の貸出冊数が10,000冊を大幅に上回った。</li> <li>・プレパパプレママ絵本講座やジュニア司書養成講座、幼稚園教諭・保育士のための絵本講座等を開催し、家庭・地域・学校等での読書活動を推進した。</li> </ul>			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(22) 文化財指定促進事業			生涯学習・文化財課	
[事業目的]	県民の財産である文化財を保存し、学校教育や観光への活用を図るため、国指定等に向けた調査を推進する。			
[事業内容]	建造物、民俗、古文書等の調査			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	5,504	986		4,518
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	現地調査件数	27件	27件
	成果 指標	文化財指定件数	10件	10件
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「南越前町今庄宿（南越前町）」が国重要伝統的建造物群保存地区に選定された。</li> <li>・「紙本墨画淡彩 鷲鷹図（大野市）」等、新しく9件の文化財が県指定文化財に指定された。</li> <li>・「旧古川屋惣兵衛家（小浜市）」1件が国登録文化財に登録された。</li> </ul>			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(23) ㊦全国高等学校総合体育大会開催事業			保健体育課	
[事業目的]	3年度に本県を中心に北信越ブロックで全国高等学校総合体育大会を開催する。			
[事業内容]	7月24日（土）から8月24日（火）までの32日間で全国高等学校総合体育大会を開催			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	438,649	15,260	14,456	408,933
[事業の目標 および効果]	活動 指標	内容	目標	実績
	成果 指標	3年度全国高 校総体の開催	—	—
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、8月13日（金）に総合開会式を縮小開催した。</li> <li>無観客により各競技種目大会を開催し、選手26,508人、監督コーチ8,081人の参加があった。</li> </ul>			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(24) ㊦地域運動部活動推進事業			保健体育課	
[事業目的]	5年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行に向けて、地域人材の確保や費用負担の在り方、運営団体の確保などの課題に総合的に取り組むために、県内のモデル地域において実践研究を実施し、研究成果を普及することにより、休日の地域部活動の県内展開につなげる。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内モデル地域（鯖江市・美浜町）において休日の運動部活動の地域移行を実践 <ul style="list-style-type: none"> <li>*鯖江市：市内総合型地域スポーツクラブにおいて実践</li> <li>*美浜町：競技団体が主催するスポーツクラブにおいて実践</li> </ul> </li> <li>県内有識者、各地域関係者による検討委員会において、地域に応じた課題を整理 <ul style="list-style-type: none"> <li>【研究テーマ】</li> <li>*学校との連携</li> <li>*指導者の確保</li> <li>*地域部活動の運営への行政支援</li> </ul> </li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	1,980	1,980		
[事業の目標 および効果]	活動 指標	内 容	目標	実績
	成果 指標	実践モデル地域数	2地域	2地域
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒や保護者等関係者を対象とするアンケート調査の実施や有識者・関係者による検討委員会を開催し、地域運動部活動の実践研究における課題や成果をとりまとめた。</li> </ul>			

その他					
(1) こども歴史文化館展示事業			生涯学習・文化財課		
[事業目的]	福井ゆかりの人物(先人・達人)の生き方や業績等を展示や講座、出前教室等により紹介し、郷土の歴史文化の理解を深め、福井に誇りをもった子どもを育てる。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普及事業…各種イベント、出前教室等の実施</li> <li>・発掘事業(調査研究)…未開拓の人物情報の調査研究</li> <li>・資料収集事業…実物資料の収集等</li> <li>・特集事業…企画展の開催</li> </ul>				
[決算額] (単位:千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
	11,201			28	11,173
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実績	
	活動 指標	企画展開催回数	2回	2回	
	成果 指標	利用者数	60,000人	24,334人	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明治時代初めに設置されたばかりのふくい<small>の</small>小学校や瓜生寅、岩佐純など教育に関わったふくいゆかりの先人にスポットを当てた特別展を開催した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、イベント等の開催を一部自粛したため、利用者数が減少したが、今後は企画をより充実させ、利用促進を図っていく。</li> </ul>				

その他					
(2) ふるさと文学館事業			生涯学習・文化財課		
[事業目的]	ふるさと文学館において、福井ゆかりの作家や作品の魅力を伝える展示等を実施するほか、若者の創作活動を応援し、文学に親しむ機会を増やす。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展の開催</li> <li>・若い世代の創作活動を支援する文学ゼミや文学講座等の開催</li> </ul>				
[決算額] (単位:千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
	24,119			6	24,113
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実績	
	活動 指標	企画展開催回数	3回	3回	
	成果 指標	入館者数	65,000人	60,737人	講演会等をオンライン開催したことによる入館者数の減
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季企画展として「かこさとしの世界展」、秋季企画展として「深田久弥没後50年記念展」を開催した。</li> <li>・当館所蔵の高見順の原稿等のデジタル画像を「デジタルアーカイブ福井」において公開した。</li> <li>・講演会・文学講座は、ZOOMによるリモート講演やYouTubeライブ配信等、感染対策を講じながら開催した。</li> </ul>				

## VI 有識者からの意見

### ○ 福井大学大学院連合教職開発研究科長 柳澤 昌一

「福井の新たな教育を支える行政の取組みの評価のために」

多くの全国規模の調査と指標による数量的な評価によって福井の教育の水準の相対的な高さは広く認められている。一方で、そうした指標による相対的な評価だけでは、当事者として福井の教育を支えてきた多くの人々の協働の営みの意義とそのさらなる発展のための課題を問い返すための評価にはつながらない。福井県が教育振興基本計画において基本的方向として掲げる三点（1「自ら個性を発揮し、人生を切り拓くために挑戦し続ける人」、2「多様な人々の存在を認め、協働して新たな価値を生み出す人」、3「ふるさとや自然を愛し、いづどこにいても社会や地域に貢献する人」）と目指すべき教育の在り方（「子どもの主体性を大切にし、『個性を引き出す』教育」、「子どもが知的好奇心や探究心を持ち、『学びを楽しむ』教育」）は現在の日本、そして世界の教育改革の展開と密接に関わり、また長い蓄積に根ざしたその取組みは改革の幅広い発展にとって重要な意義を持っている。ここでは、現在の教育改革の展開に照らして、その意義を捉え返していきたい。

#### 変動する社会と学びの転換への教育改革

コロナ感染症、ウクライナ情勢、異常気象と頻発する災害。そして進行し続け地域の存続を脅かす人口減少。これまでの経験や知によっては捉えきれない変動と不確定性が増幅していく世界の中で生きていく次の世代に、どのようにして地域とひらかれた協働社会の担い手としての力を培っていくことができるのか。すでに確定された知を伝達・受容する教育から、不確定な状況の中で協働して探究し実践していく力の育成を目指す学習者中心の学びへの転換の必要性が、世界の教育改革の前線において共有されてきている。そして、そうした学びの実現において、教師の中心的な役割の転換、教授者から主体的協働的な学びのファシリテーター・コーディネーターへの転換が鍵となること、改革の成否がそこにかかっていることもまた共有されている。

#### 改革を支える教師の学びへの問い

しかし、個々人の学習経験、また伝統と組織に深く関わる学習の様態は、一人一人の生き方と文化、そして組織に根ざしており、必要性が明白になったとしても短期的な取組みによって組み替えることはできない。多くの国々において、学習の転換を目指す教育改革が課題として繰り返し提起されつつ、実質的な改革にはつながっていないという状況も続いている。そうした現状の中で教育改革において成果を挙げている「ワールドクラス」の先端事例として取り上げられている国や地域としてフィンランド、シンガポール、そしてカナダのトロント州がある。三つの国と地域に共通することは、教育行政・学校・大学が教育改革の方向性を共有し、密接な協働による質の高い教員養成と生涯にわたる力量形成支援により、改革の中心的な担い手である教師の質の高い学習と実践を保障し、それによって教師と教育への高い社会的な信頼と評価を実現している点である。トロント州で教育行政・学校・大学を結ぶ教育センターの中心として地域の学校改革を支えてきたマイケル・フランとアンディ・ハーグリーブスはその世界的な著作を通して、学びの転換のための教育改革の鍵が、教師自身の学びの転換、学校における教師の専門

職としての協働探究的な学びへの企図とそれを支えるコミュニティの形成にあることを提起し続けている。

日本においても、教員免許の更新制とそれに伴う講習制度の改廃とも関わる教員研修の再構築という課題を巡って、改めて教師の学びの展開への企図が求められている。そして、その中で、子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」を現実のものとするために、それを支える教師自身の「主体的・対話的で深い学び」を支えることの重要性が提起されてきている。

### 教育改革における「福井モデル」の意義と可能性

教育改革のワールドクラスの取組みを俯瞰する著作の中で、OECDのシュライヒャーは、教師の学びの具体的な事例として日本における校内研修・授業研究に言及している。アメリカ・イギリス・ドイツをはじめ人口の大きな先進国において教育改革への企図が極めて困難な状況に置かれていること、大きな、そして長い伝統を持つ社会における教育改革の困難さを踏まえ、また世界的な改革の現状把握から照らし返すならば、日本における教育改革の歩みは、世界の改革の前線と呼応しつつ、比較的規模の大きな国々の中であって重要な展開を示していると捉えることが求められるだろう。そして、その日本の中であって、この間、様々な調査を通してその質の高さが指摘されてきた福井の教育とそれを支える営みの意味を、改めて捉え返し、次の展開へと活かしていくことが求められる。

トロントやシンガポールなどの教育改革と照らすならば、福井において教育行政・学校・大学が協働して教育の中心的担い手の取組みと学びを支えてきていることの意義に、福井の中では半ば当たり前のように感じている営みの価値に改めて光を当てていくことが求められるだろう。明治期の師範学校とそのネットワークを通じて広がった校内研修、校内で経験を積んだ教員も若い教員もともに授業を公開し児童の学びへの問いを深める学習研究・授業研究の取組みは、大正期の児童中心主義教育への動きの中で全国的な展開を見せる。そうした校内での研修、教師の省察的な研究への最も初期における提起として、稲垣忠彦は授業研究の歴史を辿る著作の中で当時福井師範教諭であった上田三平の提起（授業の自己批評による教授法研究，1909）を取り上げている。また、勝山に生まれ福井師範で学んだ木下竹次が、奈良女子師範附属小学校における学習研究とそのネットワークを通じて大正期における全国的な教育改革と教師の研究の中心的な役割を果たし、また三国小学校をはじめ福井県内においても広く学校改革と教師の研究が展開されている。

戦時下における統制の時代を経て戦後の新教育の中で改めて子どもたち主体の学習への企図が進められていく一方で、義務制となった中学校、そして次第に全入となる高校において、入学試験準備のための試験に枠取られた学習のエスカレーションも進み、1980年代以後、学校における様々な問題に関わる提起が続いていく。とりわけ21世紀が迫る時期以後、世界的な教育改革の基本的方向性の共有が進み、学習者も教師も、また地域の人々も含め教育を支える多くの当事者が主体的協働的に探究する学びの在り方の実現への改革が進められてきている。

こうした長期的な展開を通して、福井においては一貫して校内における世代を通じた教師の力量形成への取組みが地道に粘り強く重ねられてきている。こうした、長期にわたり培われてきた基盤のもと、近年では幼児教育・特別支援教育・管理職研修、そして全教員が10年に一度参加する教職免許更新制講習をはじめ、校内での学びと教育の新たな展開とを常に通い合わせる学びを教育委員会・大学が協働して支える取組みが進められてきている。

もう一つ、福井の教育を支える重要な土台としての地域の学び・活動の支援についても触れておかなければならない。福井県では地域の協働の学びを支える公民館主事を配

した公民館が全国で最もきめ細かく展開されてきている。こうした地域の学びが学校における若い世代の学びと結び支えるより深い層での力と言えるだろう。地域の学びを支える力を培う新たな仕組み（社会教育士）とその研修も北陸地区においては福井県を中心に展開してきている。図書館・博物館の特色ある取組みも含め、地域における協働の実践と学習の豊かさが学校での学びを支えている。

### 福井の教育を支える営みの意義を捉え返しさらに発展させるために

2007年に全国学力・学習状況調査が開始されて以後、福井の教育の質の高さに関心が寄せられ、それを実現するための術を求めて多くの教育関係者・研究者がその「秘密」を探ろうとして訪れてきたが、多くの場合手がかりを求めあぐねてきた。おそらく、福井の教育を支えているのは長期にわたり世代を継いで重ねられてきた教師の協働の力量形成とその文化の質、そしてそれを常に発展させていくための持続的な支援であり、さらに地域の人々自身による協働の学びと学校への支援の厚みによるのでないか。短期的に応用できる術や方策を求める目線では、土台にある長い協働の文化形成のプロセスは見えてこない。というより、その中にいる者にとっても、その長く重層的なプロセスとその意義を掴み表現することは難しい。

そうした問題は、福井の教育をさらに持続的に発展させていく上で看過できない課題を含んでいる。福井にあって、先人たちが培い、また自身もその展開に関わりつつ、しかし、外部からの評価の目線の制約もあり、最も重要な、専門職として、また地域の担い手として学び合うコミュニティを培い発展させていく長期的な営みの展開とその価値を捉えて（評価して）表現する準備が整っていない私たちがいる。そのことは、加速する変化の中で世界を見据えつつ、福井の強みをさらに発展させていくべき時代においては、克服していくべき重要な課題となる。

### 評価の発展のために

1990年代の議論を経て2000年代に入り国レベルの政策評価が進められ、地方公共団体・学校等をはじめ、公的な組織における評価が義務付けられるに至っている。本「点検・評価報告書」もまたそうした要請と施策に基づいて平成20（2008）年度より重ねられてきている。公的組織の取組みを自己評価し、また外部からの検証も行うとともにこれを広く公表し、施策のさらなる発展に結びつけていくという点において、公的組織の評価は極めて重要な機能を持つことは疑いない。

しかし、多くの組織において、評価が実際の組織の発展につながるものとなるかという実効性と、外部の（したがってその組織の取組みの展開を把握していない）人々にとってのわかりやすさ（公開性）の間に大きなギャップがあることは現実であり、またそのこともあり評価が学校も含むそれぞれの組織にとって負担となってきたことも疑いない。こうしたこともあり、これまでの公開性・客観性中心の評価に対して、実際に組織活動の発展に資することを目指した新しい評価のアプローチを巡る取組みも進められてきている。

形成的評価、参加型評価、社会的インパクト評価をはじめとする評価改革の取組みは、いずれも取組みの当事者自身、そしてそれに密接に、あるいは緩やかに関わる関係者（ステークホルダー）が、当の取組みの展開を改めて協働的に検討（省察的に探究）し、その意義を探り著し発展の方向を見定めていく協働の学習過程を編成していくことを中心に据えている。

それぞれの学校・地域における協働の学びと実践の展開とその意義を当事者の視点から跡付け表し、より広く関わりを持つ人々とその検討を共有吟味する機会を持ち、それを次の取組みの発展に活かしていくサイクルが重ねられていくなれば、おそらく参加型評価・インパクト評価と重なるプロセスを実質的に実現することが可能となる。福井県

においてはすでに記したように学校における教師の協働の学びが展開され、さらにそれらを協働探究的な研修(クロスセッション)を通して交流するサイクルが実現しており、学校と地域の学びを結ぶ基盤が培われてきている。またこうした多様な実践の展開を広く共有することを目指す公開セッションの取組み(実践研究福井ラウンドテーブル)も重ねられてきている。これらの営みと組織を活かして実践の共有に基づく相互評価のプロセスの組織化を実現していくことができるならば、これまで見通しが立たなかった組織的な活動の内在的な発展のための省察・検証としての評価と、広く公開されるための評価を媒介する具体的なアプローチにつながっていくことになる。

すでに触れたように、福井の教育の強みを支える営みを当事者として捉え返し、表していくという課題ともそれはつながっている。そうした取組みは実際にはすでに福井におけるいくつもの学校、実践の中で始まっている。そうした営みをさらに広く共有し、長期的な発展につなげていく営みを行政とともに、大学もまた協働の当事者として持続的に取り組んでいくこととしたい。

アンドレアス・シュライヒャー OECD 編 [鈴木寛・秋田喜代美監訳]『教育のワールドクラス 21世紀の学校システムをつくる』明石書店, 2019.

稲垣忠彦・佐藤学『授業研究入門』岩波書店, 1996.

社会的インパクト評価検討ワーキング・グループ『社会的インパクト評価の推進に向けて』2016.

日本社会教育学会編『社会教育における評価』東洋館出版社, 2012.

中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会『『令和の日本型学校教育』を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて 審議まとめ』2021.

藤吉雅春『福井モデル 未来は地方から始まる』文藝春秋, 2015.

アンディ・ハーグリーブス マイケル・フラン[木村優・篠原岳司・秋田喜代美監訳]『専門職としての教師の資本 21世紀を革新する教師・学校・教育政策のグランドデザイン』金子書房, 2022.

柳沢昌一「教育改革と省察的实践のコミュニティへの企図」, 一般社団法人日本教育学会『教育学研究』88巻1号, 2021.

## ○ 福井県高等学校PTA連合会 会長 井上 博之

このたび「令和3年度福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書」に対しての意見原稿執筆についての依頼をいただきました。以下にて僭越ながら私見を述べさせていただきます。

各事業執行の前提となる「福井県教育振興基本計画」には、懸案事項や課題として、大きく3つの視点があります。

- ① 人口減少に伴う構造変化：若年層の人口減少、県外への若年層の人口流出など
- ② 子どもの心と体：(学力および体力は維持しているものの) 学年が進むにつれての自己肯定感の減少、いじめと不登校の増加など
- ③ 環境の変化：情報化社会への対応、教員の負担増加と志望者の減少

それぞれの課題に対しては、PTAとしても同様な内容を共有しております。基本計画の基本理念である「一人一人の個性が輝く、ふくい未来を担う人づくり ～ 子どもたちの「夢と希望」「ふくい愛」を育む教育の推進～」についても同じ思いです。

基本理念の後に、8つの基本方針が続くのですが、点検・評価にあたっては、基本方針を常に念頭に置き、令和3年度に実施された各事業が、基本方針に沿っているかを確認いたしました。

また、実施されている事業については多岐に渡っていますが、3つの重要施策と、それを支える1つの施策を中心に点検と評価をさせていただいております。

それぞれについて以下でご報告させていただきます。

### 第1の施策：子どもの主体性を大切に、「個性を引き出す」教育の推進

基本計画にもある「個性」を伸ばすための事業が行われております。ちょうど文科省でも「ギフテッド(特定分野に特異な才能のある児童生徒)」への対応の方針が出てきました。

県事業においても「トップアスリート」だけではなく、「トップアーティスト」「トップファーマー」「トップサイエンティスト」「トッププログラマー」など、そうした人材を育成できるように検討いただきたいと思います。他方、個性を伸ばすことは一律性とは相反することにもつながります。何かを伸ばすために何かを省力化することも必要になることでしょう。また、個人だけではなく、学校ごとの「個性」もより強調していただきたいと思います。

英語についてもこの施策の中で事業推進をしていますが、一律で学習する必要性があるかどうかは一考すべきと考えます。観光地で飲食店の年配の方が流暢に英語や中国語を使いコミュニケーションを取っているのを見ると、重要なのは苦手意識の排除と語学を使う環境にいるかどうかだと感じました。個性を伸ばし、専門性を高め、自分に自信を持つことが、語学に対しての抵抗感も低減させるのではと思っています。

クラブ活動についても、この施策内での課題になります。現在、様々な取組みが各県、各校で模索されています。運動はしたいが、学業も優先したいという生徒に対しての受け皿となる、より自由な参加の部活動の在り方を福井県においても検討いただきたいと思います。



## 第2の施策：子どもが知的好奇心や探究心を持ち、「学びを楽しむ」教育の推進

タブレット端末を一律に導入し、1年が経過しました。PTA内においても、タブレット端末については議題に上がることも多いのですが、主に紛失や損傷をしてしまった際の補償の問題などが話し合われています。

デジタル教科書の利便性、学業向上という点と、紙の教科書が持つ書き込み可能な点など、それぞれのプラスの側面を評価検討していただきたいと思います。

また、教わる側（生徒）の意見だけではなく、教える側（教職員）の意見や負担の増加なども、このタイミングで検証を行っていただきたいです。タブレット端末を効果的に活用できる学習内容や紙の教科書との使い分け、研修など教員への支援策についても検討いただきたいと思います。

## 第3の施策：地域に貢献しようとする心を育む「ふるさと教育」の推進

「ふるさと教育」の推進は、基本計画の「ふくい愛」を育むという部分につながっていると思います。様々な形で福井県にフォーカスした事業が実施されています。そうした事業を通じて、郷土である福井に興味、関心を持ってもらうことは大事であります。さらに言うなれば、より小さいコミュニティ単位である「学校愛」を育てていただきたいと考えています。

学校に行く楽しみは多くの場合、仲の良い友達がいるからだと思います。その友達と時間を過ごす学校のアイデンティティを共有し、自慢の母校と思えることが、「ふくい愛」にもつながっていくのではと考えます。校則の見直しや、学校内でのイベントなど、より生徒が参加をし、自分たちの学校をより良くしていくことで、自分の居場所ができ、自分に自信を持てる子どもが増えてくればと思います。そうした子どもたちが、自分でキャリアを選び、「ふくいの未来を担う人」に育っていただきたいと願います。

## 3つの重点施策を支える土台：「教職員が輝く」働き方改革の推進

80時間を超える超過勤務時間は大幅に減少しているものの、2021年度ゼロの目標はいまだ達成されておらず、業務量は多く、報道等で伝えられているような自宅に業務を持ち帰っている教員の方が存在していることを懸念しています。

部活動の一律時間制限や活動休止日の増加、研修への参加の見直しなど、より抜本的な時間削減への取組みを行っていただきたいと考えております。大量の定年教職員が見込まれる一方、教員採用選考試験志願者数は減少しており、教職員の労働環境改善は喫緊の重要な課題であります。

また、いわゆるモンスターペアレントと呼ばれる保護者による教育者の方への理解度の低さから生じる問題についてはPTA側の課題の一つと捉えています。保護者側も、より教育現場を理解し、教職員の皆さんと信頼関係を構築することが必要だと考えております。

最後になりますが、子どもたちの教育のために日々取り組んでおられる県の職員の皆様と現場の教職員の皆様には、深い敬意を表するとともに感謝を申し上げます。

高校PTAとしても、サポートをするべく取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願いたします。